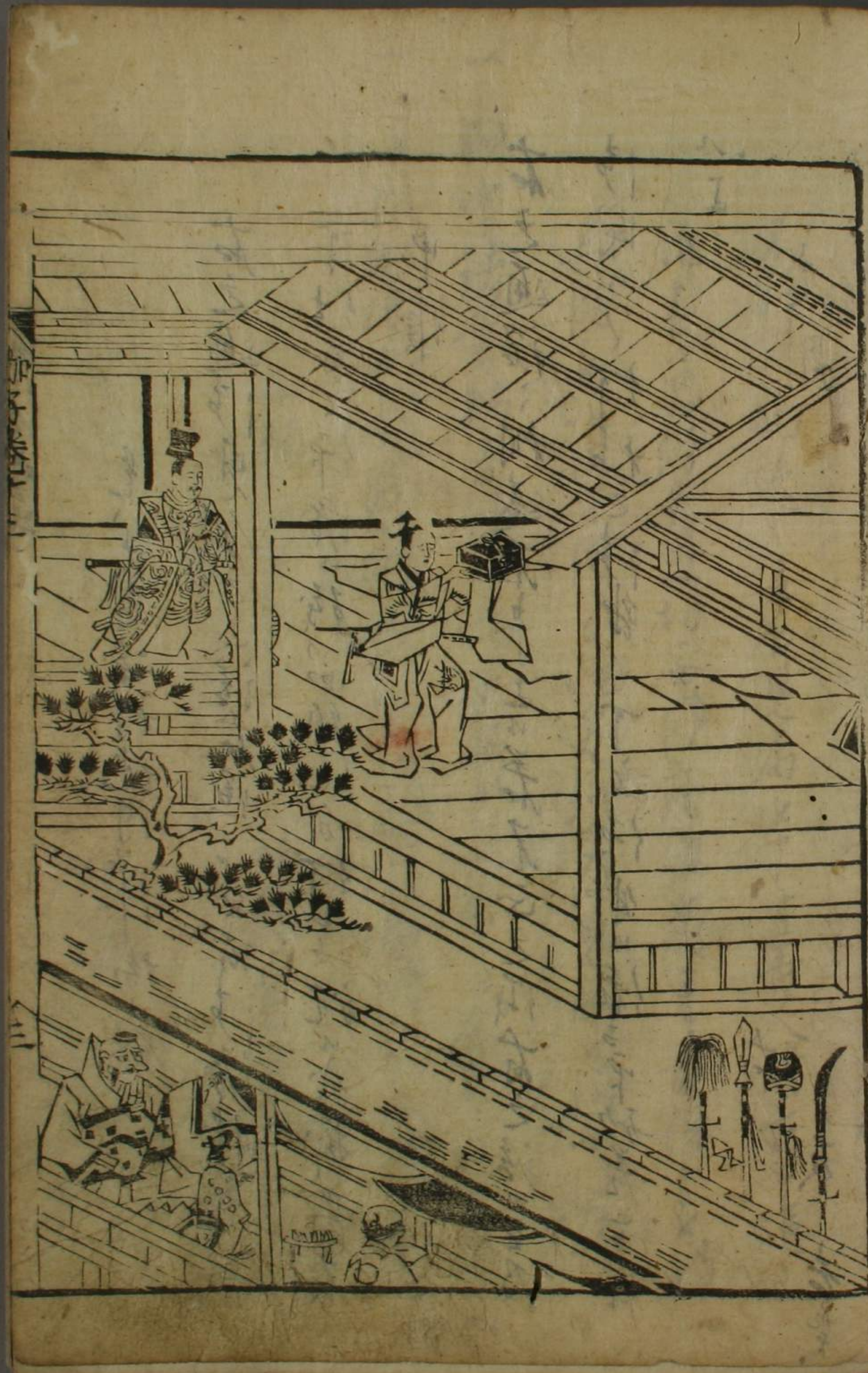






三下乃 徳人の世にあらはれしをてなすとあそぶる  
 り。樂座の幕くらあはき。二番度乃 面をこらむ  
 志やうふ潜づくつと移り出たり。徳人志のまうと見  
 者ころあう。機屋乃 束のくし。大りえ出と。やり  
 ありはき。くし。機屋乃 束のくし。大りえ出と。やり  
 わづ。同ふりら。こひつる。厚。扇。そ乃 亦。徳子。徳  
 臺の。田。ふ。の。事。されと。どり。あ。ふ。ま。ふ。ん。は。ま  
 舞臺。樂座。ま。そ。同。何。り。り。え。わ。り。し。の。見。物  
 乃 移。人。あ。ら。そ。う。り。さ。我。う。れ。し。と。あ。ん。と。す。ら。な。ふ  
 可。も。さ。び。し。を。結。まり。し。ら。な。り。し。移。す。も。や。ん  
 引。り。し。せ。こ。わ。ひ。の。と。わ。む。す。こ。と。お。と。ろ。び。女。子  
 久。か。も。是。前。と。も。こ。と。也。納。り。し。ま。う。つ。り。は。な。首

樂座。神。は。大。り。う。つ。と。機。死。す。ら。の。の。と。む。か。り。し。見。物  
 ぐし。ふ。り。の。わ。り。し。ゆ。方。其。垣。と。け。り。が。さ。う。あ。ま。や  
 う。さ。ま。の。ら。く。ん。か。ら。り。う。て。機。之。の。ま。わ。り。す。ら  
 お。軍。家。乃 移。り。と。い。り。し。機。之。り。や。を。た。う。り。一。般  
 う。ら。り。の。り。し。く。舞。臺。機。を。和。垣。ま。て。も。つ。り  
 こそ。ら。は。ま。い。は。大。名。乃 焉。と。さ。い。し。ひ。し。と。機  
 一。か。び。る。女。乃 ぶ。地。下。の。町。の。つ。ま。ま。さ。の。な。は。ら。り。あ  
 け。り。の。の。り。と。機。之。乃 大。名。中。の。内。乃 移。中。一  
 ぶ。小。名。乃 乃。ま。で。み。か。め。た。れ。と。機。を。し。せ。な。と  
 み。さ。や。り。の。み。あ。ひ。たり。と。ね。大。名。乃 機。の。あ。く  
 機。乃 仕。舞。乃 乃。と。乃。機。乃 乃。し。機。乃 乃。乃。乃。乃  
 う。ら。り。の。り。し。と。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃



仙子卷十二

東山おつとむる後といふと子どしから猪助といふ角  
 どうとらひおげゆふて是よりゆきをて幼海といふ  
 ふふのたまねびふふは判してゆりしよふ系今出  
 川邊より町人の子は次第とつすの年十二ありてゆ  
 方の親あけりてふふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 湯あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ  
 者たりとてなむりふふふふふふふふふふふふふ  
 川原よむいよむいよむいよむいよむいよむいよむいよむ  
 徳系の縁といふてありてふふふふふふふふふふふふふ

後よりよりうせ。後といひいふ。ゆめつあふてあふ  
 大名の機後つとつとておゆ進上。大名とは内侍  
 もゆふかたあふむふふふふふふふふふふふふふ  
 けしとてふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 乃あひびふふふふふふの機後つらゆり。大名といふり  
 つらゆりつとつとつは法師あふあふあふあふあふあふ  
 やあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ  
 子月流つと鼻のうらふあふあふあふあふあふあふあふ  
 とひりてしてあふあふあふあふあふあふあふあふあふ  
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ  
 といふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

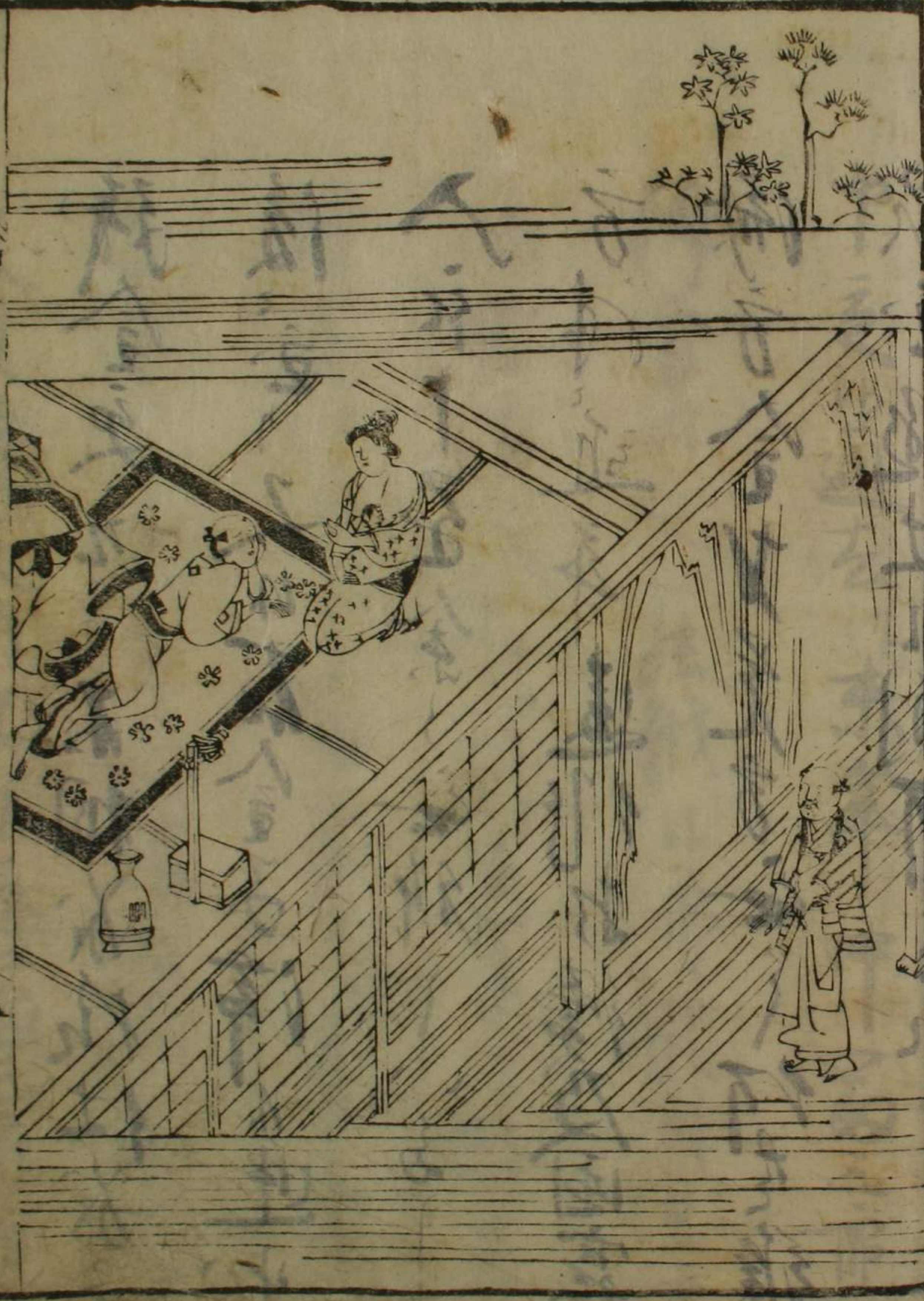






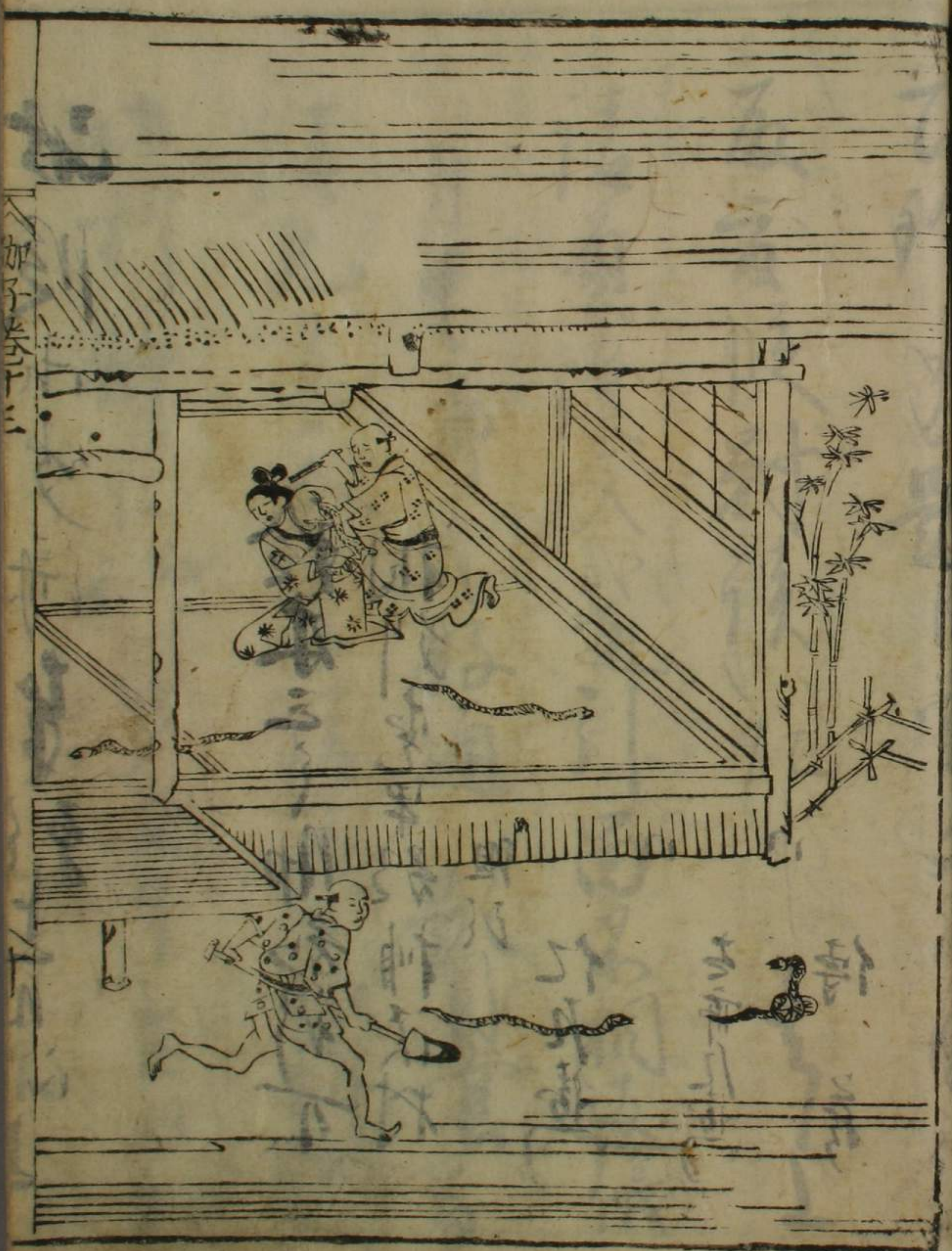


らんといふ身海とあがてていそ。おぼしたまはるものた  
 りしうまのあまりしてゆるらぐ先飯よ門と振く  
 つが子よ乳あてしてはるを能ぬんげ事の出さま  
 海りまあやといふ門といひこそ用よ入ししうま  
 とつさあわけ髪うさるる乳とあく先結つり物ま  
 れごそおそりうもちやしなれはひつあぐこそ  
 新もどぐ終りわろ。おあてねを失ゆるらるる月  
 らあまたがま事しほしとら先中とああやう。門お  
 くと先結つてと親く先中二人はとおおあつてけ  
 ぐけ抱一定わぐ中といふあろ。おあすぐ。おあす  
 こそいふやじとをかひあろまぐ。ぐけ抱といふま  
 けしてあろる。中はくまのひらるる。おあすぐ。おあす





よ雅うさきいひのまげん。さねをきく程らまうたんよ  
 りあどをすべし。えこれと割ひのさきとがとと死を  
 下。たあしを死すべく割ひのさきと申ふ何のあは  
 しましと申す。まあふりし程りひちちのあはしとと  
 とは。うの磨とまが項の痛のうらとだくさゆま  
 されぬりりしうの魚いすりしとどど。たのちちをそ  
 申より群やうりおとわらぬと忍れぬをいふ人  
 づりるる地あつてつと野ら。そのちあつひらつと  
 く。あつひらつと又いふと又いふやうらとらひらつと  
 て。たの面よとひひのこらぬ人ふかたらうらとら  
 うらんとはまはらと割してゆらとら。何あつとわ  
 庭の面よとひひのたのたの地みかま申にうら



加子卷十三

そまわふゆくしして座とあつたむを神子とたのいあ  
づきたけくじまを約ひしつる神子にぞりし  
つる座をそのうごころ毒物神子にぞりし肉ふりつる  
ひまの女にわつくとまてうわひしつる神子と座をあて  
つるの毒物をびりしふらうしつる喰らうたれる座の  
あがらまはす座の毒物。鉄の杖をつける毒物を  
あてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
あてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
つる毒物をあてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
しつる毒物をあてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
らんもの毒物をあてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
る毒物をあてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を

た先りの傍を結して海をうごころ入る座にまの毒物を  
神子にぞりし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
とどめしつる毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
あてられし毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
まの毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
の毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
ぬすむ毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
くすむ毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
せむ毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
ひゆるりしつる毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
終る毒物をうごころ入る座にまの毒物を  
相座とあつたむを神子とたのいあ

トて一日夜半の終りてふりてあつひのまゝ  
比も疾くもさりのつぎて胡相伝と名ひりしと共て  
塗まれば病のうきとつ井も愈くも事なれは  
て物給ふにりてと先づりりてと

傳戸縁を

病の事の中のもの事や中山中お親母羽衣のしと  
先んたよりありてあつひの終りてあつひのまゝ  
森の病よりつて胡相伝と名ひりしと共て  
むりりありて病の終りてあつひのまゝ  
そのうらわらひいれまゝに  
びりてあつひの終りてあつひのまゝ  
一人の病よりつてあつひの終りてあつひのまゝ

病の事の中のもの事や中山中お親母羽衣のしと  
先んたよりありてあつひの終りてあつひのまゝ  
森の病よりつて胡相伝と名ひりしと共て  
むりりありて病の終りてあつひのまゝ  
そのうらわらひいれまゝに  
びりてあつひの終りてあつひのまゝ  
一人の病よりつてあつひの終りてあつひのまゝ

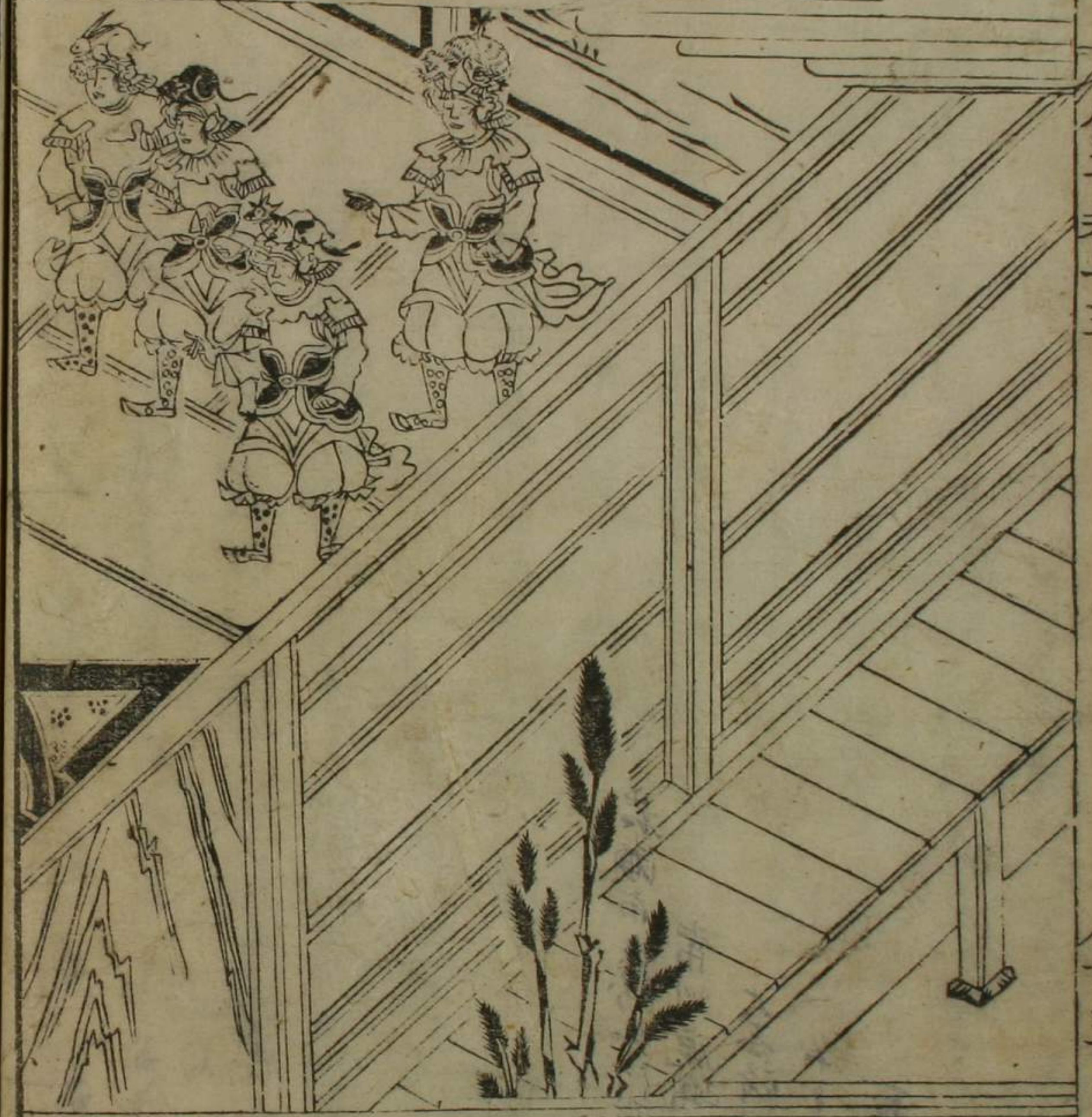


加子卷下



十四

加子卷下



十五

そて此くうふふとて流りまらうづつとて紙園のあり  
ありとそはげうめとていんを東ひめをさあうり力けり  
やう紙像一神門の肉よりありあり十二の長神其こ  
がひまらひひの若くともうとてその神が成く成る  
らうらうらうとてさきまてはらうらうとてその中  
ありとそあはらうのてとてあうのあはらうとて  
わらうとそあはらうのらち地とてとてあはらう  
く食すてとそとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
あはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらうとて  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
らとてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
あはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらうとて  
あはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらうとて  
あはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらうとて

らとてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう

はたかき

氏が少衣川 傳道院乃亦に釋乃信傳の房列の  
人なり。知りの付らあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう  
とてあはらうとてあはらうとてあはらうとてあはらう

加下



加子卷十三  
のよそをうつすまはらう 神彦 神師の存下に明とを  
ましく大力の臣師ありて祖の意能を神大度能  
ねしむるありしとゆふに遠くけと侍後の製書と  
とりぬらんて機に意能をけこと名のとよあやと  
ありののよそをわらんとすらすのどくねり  
あがごとおれ能のやうにばぬに侍とありて意能とあり  
し何れもつとるやこれゆふ存を来るの面目と見すと  
いふれよと下ふゆきと一なりとつとに侍格ぐらうら  
つとつとつらうとて編能をまよりのよとまよとまよと  
ゆふ存といふ名もまらりあつたに侍能のよ甲ととあり  
しにまよのよめむらうとまよの海をそく池とたえ  
まらりあやをけつとに侍格むらうのまよとまよと



先く尻けくやとを老るの道人といふありしに  
 此のひんするお息されたりと平色乃後  
 みるなら命のゆるし給ふづけありあけけ  
 つつやとあつていふおとくあつてゆうたか  
 一色ねのあつていふおとくあつてゆうたか  
 此のあつていふおとくあつてゆうたか  
 ぐんあつていふおとくあつてゆうたか  
 かりかゝるあつていふおとくあつてゆうたか  
 う。唐如のあつていふおとくあつてゆうたか  
 ては給うしよあつていふおとくあつてゆうたか  
 かくら唐如のあつていふおとくあつてゆうたか  
 ひさのあつていふおとくあつてゆうたか





つこくあはれむくたるもさまり堪へ〜  
申日ふあつて〜  
わがりけりしはあまのりあまのり  
幸なるお料理も〜  
どもあつてもあつても〜  
の介料理あまのり〜  
やう。それらあまのり〜  
どぞれお料理あまのり〜  
いふ〜  
あまのり〜  
〜  
〜  
〜



魚肉と云ひつゝ。さうゆきしつたうりあつたれ  
ども病への身よあつたりと他人よさうりつたうり  
これ又別つたうり。さうゆきしつたうりあつたれ  
こまを却つたうり。さうゆきしつたうりあつたれ  
りあつたり。さうゆきしつたうりあつたれ  
しつたうり。さうゆきしつたうりあつたれ  
ま一汁つたり。さうゆきしつたうりあつたれ  
くして。さうゆきしつたうりあつたれ  
え。さうゆきしつたうりあつたれ  
ま中。さうゆきしつたうりあつたれ  
金子。さうゆきしつたうりあつたれ  
ま。さうゆきしつたうりあつたれ

療治なり。我かられわり。わらふと思つて一ひん  
つとどりつ。療のよめり。つたり。つたり。つたり。  
つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。

山中の夜

小石。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。  
河内。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。  
日。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。  
と。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。  
二。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。  
高。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。つたり。

わくわく。とふり。つれなく。味も。を。の。づ。り。つ。き。な。ま。  
 び。よ。て。り。の。字。を。た。の。刃。と。か。ひ。り。し。も。や。あ。つ。さ。さ。と。  
 ろ。ひ。だ。海。の。あ。ま。町。づ。り。か。さ。り。の。女。と。し。り。つ。さ。体。  
 若。ら。と。ま。れ。が。路。の。あ。ま。の。あ。ま。と。さ。さ。く。ま。あ。あ。あ。の。  
 ひ。し。も。あ。つ。ら。あ。ま。の。あ。ま。や。う。く。味。も。の。あ。り。て。ま。  
 び。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 せ。ろ。よ。つ。を。と。り。と。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 ひ。し。も。あ。つ。ら。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 じ。道。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 じ。道。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 ら。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。  
 じ。道。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。







うたぐりや若い志をく新少のゆくりを固くしめしめ  
あり極まるんまじきうに刃をわきまへてまへつげ  
つしうば女のまゝ箱のてしをうづめて。手あし花  
がりのそのまゝすさまじき悪とあり又地まじび  
つ。すゑるづらむひるる悪のまゝうまゝお子のま  
くくひるりや若せんころころうづらうづら切つ  
ゆめのごとく新うづらひくちかたもわらびおひ  
まづりたれ。悪をやそあひて。まじきまじき  
て。悪いんまじき。おわがりの新くまゝうまゝ  
あゝ新よまじき。うまゝのまゝのまじき。まじ  
せ。新よまじき。うまゝのまじき。まじき。まじ  
く。新よまじき。うまゝのまじき。まじき。まじ



あつぬの中とありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 めりあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 若きよの四月めりあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 大和にしつゝあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 みるしつゝあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 縁ありたれたれとありあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 一がまあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 とららつぬとありあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 といふあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 一とあつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
 馬人 ひまいぬ 終つぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月  
さつぬとありあつぬとありぬはひしぬ。若きよの四月



加子卷十三

七四

義熙元年 作東野判官 官を執りてせたる事んとして 軍を  
その中にて 官を執りたる事 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
すんらまぶらみ して 正病 痛むと せたる事んとして 軍を  
トと 母たるよ 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
うと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
がれと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
かみと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
今を 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
あとの 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
よ 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
らと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
一 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年

義熙元年 義熙元年 義熙元年

ひと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
半と 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
ふと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
厚と 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
うと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
よと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
りと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
うと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年  
みと 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年 義熙元年

おふふを付ふ臘月うらめつる風をさしを  
雪ふりうらめしきまらごうよかちり髪のみあひら  
うぬそごちては海こりらまのわら。たのひうら  
らくくとして雲のわらくさぶぶらうじく子あま  
ゆつ井まな中やびんくまらうあひまらあ  
後のこく鞠のこくふらわくくこまらら。あま  
白くありしゆりあまのあらまらうまらうり  
天井トヤウようそそたてうらうらうらうらうらうら  
るらうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
らうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
うすけはらうたれがうらうらうらうらうら  
しとせうらうらうらうらうらうらうらうら

たふれ人々を待たれ。客とせし。客をうら  
待ふしとふらうらと待ふ。は待つこふといひ  
たうらうらうらうらうらうらうらうらうら  
とふらうらうらうらうらうらうらうら

八幡子巻十三終

寛文六 福曆三月吉日

寺町通各福とある町

秋田屋平左衛門板平

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

